

Classification of an object traded in the market. 市場で取引される目的物の分類

産業	目的物の具体例	買い手の主たる目的
第一次産業	コメ、小麦、トウモロコシ、 海老、マグロ、花き、等々	①自己消費(自分が食べる等)、もしくは、 ②川下(卸売業や小売業や消費者)への販売
第二次産業	原油、鉄鉱石、石炭、 ダイヤモンド、地金、 ボーキサイト、等々	①自己消費(製造のため原材料として自社で使用する等)、 もしくは、②川下(卸売業や小売業や消費者)への販売
第三次産業	株券、債券、出資証券、 優先株式、預託証券、 デリバティブ、等々	①履行期日に所定の財産の分配・償還等を受け取ること、 もしくは、②市場での再売却(有価証券売却益の獲得)

注:

「市場で取引される目的物」を、マクロ経済学の産業の分類になぞらえて、私なりに分類してみた。
 第一次産業、第二次産業の分類される目的物には、基本的には①自己消費の目的しかない。
 なぜならば、市場参加者に制限がない場合は、②川下への販売は理論上は不可能だからだ。
 また、第三次産業に分類される目的物は、有価証券全般が当てはまるのだが、その目的としては、
 元来的には、①履行期日に所定の財産の分配・償還等を受け取ることが目的となる。
 ただ、市場ということを鑑みると、②市場での再売却(有価証券売却益の獲得)も目的に含まれる。
 前者は概念的には「インカム・ゲイン」であり、後者は概念的には「キャピタル・ゲイン」である。
 「インカム・ゲイン」とは、有価証券の所有に起因する本来の利益であり、
 「キャピタル・ゲイン」とは、有価証券の売却による利益のことである。